

学校図書館報

赤 土

第55号

編集・発行
群馬県立館林高等学校
学校図書館・図書委員会
印刷／東京広告株式会社

unlearn

(赤ひもろく)

校長 齋藤 正章

「青丹よし」という「奈良」にかかる枕詞があります。青丹というと青と赤と思っ
てしまいがちですが、どの
古語辞典にも「に」は「土」
のこととあり「青丹」は青
(みがかかった黒い)土と解
説されています。奈良で多
く産出されたんですね。こ
の「青丹」に対して「赤丹」
という赤い土もあり、こち
らの方がより貴重な土だっ
たようです。神社の柱は赤
く塗られていますね。貴重
な「赤土」を使って昔の人
は「化粧」をしました。元々
お化粧は顔(体全体)に赤
い土を塗って魔除けとした
ものです。本校の所在地富
士原町のすぐ東側は赤土町
です。赤土が採れたのでし
ょうか。図書館報命名の由来
もそこにあるのでしょうか。
ちなみにわが青春の思い出
も赤土(アンツーカー)コー
トの上にあります。

教員になりたての頃、当時
の尊敬する校長から一冊の
本を渡されました。J・ク
ラベルの『23分間の奇跡』
です。読後感想を求められ
「教育って怖いんですね」と
答えたように覚えています。
当時小説以外で読んでいた
のは、大好きな森毅さん(数
学者)と高橋義孝さん(ド
イツ文学者)です。雑誌『太
陽』で書齋が特集されてい
たことがあり、高橋さんの

この「しなやかな芸能精神」
と「遊び心」を大切に持ち
続けようという意思があり
ました。今も財布の中には
秋篠寺の「伎芸天尊御守護」
の小さな御札がしわくちゃ
になりながらも入っています。
森さんの「まちがったつ
ていいじゃないか」「チャラ
ンボランのすすめ」「生きて
いくのはアンタ自身よ」等
の文庫本も色褪せながら本
棚から出てきました。

とを学びましたが、大学を
離れてから、学んだことの
多くをアンラーン(unlearn)
しなければなりません。し
た」と言ったんだそうです。
このアンラーンという言葉
ですが、learn「学ぶ」とい
う語の前に「un」がつく。目
は否定を表す接頭辞です。か
ら「学んだことを念頭から
払う、忘れ去る」という意
味になります。鶴見さんは
それを「学びほどく」とい
う日本語に置き換えました。
こうも言っています。「知識
人」とつきあっていると、習
った通りをしゃべっている人
がいる。そういうのは学び
ほどいてはいない。そうで
はなくて、何か普通の日常

生活の言葉として言い当て
ている人もいます。それはア
ンラーンした人なんです。」
(鶴見俊輔語録1定義集か
ら)別のところで鶴見さん
は、こんなことも言ってい
ました。「他の人の知恵が自
分の中に入っているんだな、
という感じを持つんです。
私は自分の才覚でやってき
たように思っているけれど、
どれだけ多くの人から知恵
を注がれてきたか」

第38回七校合同読書会

☆テキスト

『半透明のラブレター』春田モカ著

☆メインテーマ「愛する人に自分の心を読ま
れるのと、自分が愛する人の心を読めてしま
うのは、どちらが辛いのか」半透明のラブレ
ターに込められた意味について」

平成30年12月13日(木)
於群馬県立西邑楽高等学校

▼館林高校討議内容▲

主題を話し合った結果、主
題に関しては様々な意見が
出た中で「心が読まれる方
は相手の心が読めないの
で、相手にとって読まれて
いるのか、どんな事が読ま
れているのか分からない
ので、相手に対して疑心暗

鬼になってしまい、好きな
人の心を信じる事ができ
ないのは辛いので、読ま
れる方が辛い」という意見
になりました。
副題では、題名の「半透明」
の部分では日向とサエの二
人のことで日向は相手の心
が読めるけど、サエは読め
ないから「半透明」でそれが
ラブレターリーなのでラブレ
ターなのだという意見に
まとまりました。



館林高校参加者感想

◆館林高校参加者感想

2年 青木 元氣

今回七校合同読書会に初めて参加して、他校の生徒と交流することによって、校内で2回練習してきたことを十分に発揮し、司会を務めることができました。私以外にすぐ場を仕切ってくれる人がおり、私が司会をするうえでサポートをしてくれる人が多かった。とても円滑に話し合えることができた。時々、意見が出ずに話し合いが止まってしまう場面がありました。話し合っても、近いの時間を与えたり、近くの人と話し合っても、近い意見を出すなどといった事も行い、時間を余すことなく使うことができた。充実した時間が過ごせたような気がします。クラスのメンバーの提案で、途中で5分間の休憩をはさむなどして、その際には、周りの人と読書会のテーマと

は別でメンバー同士が皆仲良く雑談をしている場面も見受けられ、討議によって緊張していた場の空気が一気に軽くなったように感じました。初めての読書会でしたが、また参加したいと思えるような濃い時を過ごしました。

◆館林高校班/書記

2年 半田 隆大

今回第38回邑楽・館林地区七校合同読書会に参加した。私は、班の記録係だったが、何故か事前に練習で話していたおかげでどうにか話すことができた。討論が始まって最初の方は班のメンバーのほとんどがあまり意見を出していなかった。が段々と意見が出ていった。こういうのは意見をよく出す人どうしの討論になってしまいがちだと思っていたが、全くそんなことはなく、司会が意見をまわしたり、まとめたりしていたのがすごいと思った。また、意見をよく言ったり話をしていた人がいたので、その人のおかげで話しやすくなったと感じた。また、討論を進めていて、まとめることの難しさを感じた。理由は意見を交わしていくうちに、振り出しに戻ったから。なかなか結論が出なかったからだ。今回、私は記録係ばかりで意見をあまり言えずに終わってしまったので、考えをすぐにまとめられるようにしたい。

◆西邑楽高校班

2年 山田 臣翔

初めて邑楽・館林地区合同読書会に参加した。読書会へ向けての準備として校内でのリハーサルを2回行った。リハーサルでは、相手の話をメモし、話の展開や自分が「心を読まれるのが辛い」「心を読むのが辛い」の立場をはっきりとさせ、発表することができた。人前で発表する機会があまり無く、緊張したが、ここで発表できたので自信がついた気がした。本番では12名での活動となった。司会によって話が進められるが沈黙してしまう時があった。その時に自分は意見を言うことができたので、リハーサルの成果が出たので良かった。

◆西邑楽高校班

2年 荒川 拓摩

私はこの読書会に参加して、良かったと思うことがあった。まず、最近あまり小説などが読めていなかったもので、久しぶりで本が読めたことが良かった。もうひとつは、他の学校の生徒や、同じ学校の生徒た

ちで同じ本を読み、皆で班に分かれて感想や思ったこと、テーマにそった話し合いをしたことだ。

普段、本はちよくよく読むが、感想や思ったことなどは、他の人と共有したことがほとんどなく、初めてのことで面白かった。とても新鮮で面白かった。話し合うことで、自分とは違う視点で読んでいる人もいて、こういう考えもあるのか、と思うようなこともあり新しい発見が多かった。

初めて参加して、最初はしっかり喋ることができたのか心配だったが、案外始まった話すことができた。機会があれば、また参加したいと思った。

◆関学附高校班

1年 近藤 亮太

今回、私は七校合同読書会に参加してたくさんこのことを学ぶことができた。例えば、他の人の意見や感想を聞くことによって、自分とは違った価値観を知ることができたり、また、初対面の人と話すことが苦手なので、それを克服するための良いきっかけになったと思います。

今回学ぶことができたことの中でも特に印象に残っているのは、司会・進行をしてくださった柴田君のことです。話し合いの進め方や場の和ませ方がとても上手で、本当に素晴らしい人だなと思いました。私は人前で話すことが大の苦手なので、柴田君を目標と

してこれから頑張っていこうと思いました。

今回、七校合同読書会に参加できて、たくさんこのことを学ぶことができて、本当に良かったなと思いました。今回学んだことを必ずこれからの学校生活に活かしていこうと思います。

◆関学附高校班

1年 福田 拓真

私が今回の七校合同読書会に参加した感想は、今回のような体験は初めてで、とても貴重かつ楽しい体験で嬉しかったということ。す。こういった一つの本について知らない人と話すことは、聞いた時には驚かされましたが、今日いざやってみた限りではかなり楽しくやることができました。班の他の方々が話しやすい環境を作ってくれたというのがかなりあると思います。が、話しやすく雑談交じりでワイワイとやれたのかなと思っています。

私は人見知りですが最初にこの話を聞いた時には、正直にいうときついと思いました。周りの皆が人見知りだったので、自分だけ人見知りじゃなかったのは精神的に楽でした。本を読んだのが半年も前だったので内容をあまり覚えていなかったけれど、班は内容にあまり触れず、メインテーマに関係のありそうな話しかしてませんでした。それのおかげで円滑かつ充実した日々を過ごしました。今後このような機会には参加したいと思

ました。

◆大泉高校班

2年 山路 真広

七校合同読書会の一週間前くらいから緊張でガチガチだったが、やってみると割と楽しかった。自分のグループに館林高校の生徒は自分一人しかいなかった。で、ほんの少しさみしかった。しかし、司会者の先輩がとても優しく面白かった。だったので、時間が経つにつれ緊張がほぐれていった。私はひどく緊張してはいたが、大きな声で自分の意見を言うことができたし、グループの生徒の意見に対して何度か反論をすることもできたので良かったと思う。

自分でも考えもなかった意見や考え方が出てきてとても驚いた。声は出ていたが、コミュニケーション能力がなさすぎてうまくまとまらなかったりもしたが、司会の先輩が良い感じに言い直してくれてとても助かった。練習の時には無かった、始める前のレクがあり、相手が考えている食べ物や動物などを当てるゲームをやった。とても楽しかった。今日はとても良い経験になったと思う。七校が誇るべき素晴らしい伝統だと思う。

◆館林商工高校班

2年 佐藤 克海

私は、七校合同読書会に参加して貴重な経験ができてよかったと思いました。私が配属したグループは、

たいてい一校につき二人いたのに対して私は一人でした。初めは一人でちゃんと意見を出すが、だんだん意見を出さなくなってきた。外れなことを言ってしまうと、司会者の人が気を配って自分から意見を言うようになってきた。周りのあたたかい雰囲気があったりしたのでとても意見が言いやすかった。それと学校で練習した時と違って本テーマ以外にサブテーマについて議論を交えたり、司会者が事前に考えてきたテーマについて議論するなどがあって即興で意見を考える力を身につけることができたし、色々な人の意見を聞くことで練習の時に聞いた意見とはまた別の意見を聞くことができて、また新たな視点に気づくことができた。今回の経験はこれから先のことにとても役に立つと思います。この経験をいかしていきたいです。

◆館林女子高校班

1年 矢野 直樹

私は、この七校合同読書会に参加して、自分の意見を主張することがとても大事だということが分かった。私以外に参加した人は、読んだ感想や思ったことを主張して、これから社会を生きていく上で必要不可欠で見習わなければならないと感じた。私は、自分なりに分かりやすく意見を主張したが、私の意見に対する反論を聴いて納得したり、

逆にその意見に対する反論をしたりして着々と少しずつではあるが大人になるために成長していることが感じられた。全体を通してみて、当たり前のことだが、本の感想は人それぞれで感じたり、それは違うのではないかな？などの反感を覚えたりしてとても充実した時間を送れてとても良かった。司会の進行もスムーズで最初に気分をほぐすためにオリエンテーションを設けたり、相手の意見を尊重したり、人として気遣いが出来、意見の主張の仕方がとても素晴らしいと感じた。

◆館林女子高校班

1年 成塚 騎士

今回の読書会を振り返って最初は自分たちの班は男子が自分を合わせて4人しかおらず、とても緊張していましたが、一番初めに行ったレクリエーションで、みんな笑い合い、そして話していくうちに話しやすい雰囲気が出てきました。そして、互いがこの本を読んだどんな感想を持ったか発表し合うときには今まで練習してきたでいていたような感想ではなく、よりこの本の内容に深く触れた感想が出てきて、すごいなあと感嘆していました。次にメインテーマについての話し合いのときには、最初にメインテーマのどちらが辛いかの投票が行われた時には丁度半々くらいだったのですが、何回か意見交換をして討論を重ねていく内に段々

と片方に人数がかたよっていき、とてもおもしろいなと思いました。今回の読書会では普段話することがなさそうな人たちと意見が交換できて、とても有意義な時間が過ごせたと思います。またこの様な機会があったら是非参加したいです。

◆板倉高校班

1年 根岸 勇仁

今回、館林高校の生徒は自分一人で読書会に参加したので、とても緊張していましたが、しかも男女比が2対8で最初はしゃべりづらかったのですが、みなさんとてもしゃべりやすく、楽しく討論することができました。特に司会の方が話の振りが上手で、レクリエーションのときはサイコロで当たった人に質問していつでも楽しくしました。また趣味が同じ人が多く、ゲームやアニメの話で盛り上がりました。討論では、本題の愛する人に心を読まれる方と読める方ではどちらが辛いかについて、ほとんど同じくらいに意見が分かれ、お互いに自分の主張を発表し合いました。自分は相手の気づかいや悩みも分かっ

新着任者座談会

テーマ 私と読書

平成30年5月25日(金)
午後2時~午後3時40分
於 視聴覚室

新着任の先生方に読書体験を話していただきました。

- ①好きなジャンルの本・作家
- ②一番心に残っている本
- ③読書の「きっかけ」
- ④活字離れの高校生へ向けて
- ⑤電子書籍について



登田 哲 先生(数学)

①好きなジャンルの本・作家を挙げられるほどの読書家ではないのですが、今まで読んできた本の多くは、数学に関する本です。作家には特にこだわりません。小学生でも解ける入試問題を紹介している本等が好きです。

②先述の通り、中学入試の問題を取り上げているような本は結構面白かったです。たしか「解ければ天才!」算数1000の難問・奇問たかが算数されど算数」のようなタイトルであったと思います。

③読書をしているといえるほど読書はしていないのですが、新聞は毎日読みます。すべての面を読むわけではありません。現在どのようなことが起きているの

か等を知りたいから読みます。

④自分に興味のあることについて記されている本ならば読む気になれるのではないのでしょうか。私同様に、新聞の記事で興味のある部分を読むことから始めてみると良いと思います。

⑤私は利用していないので、感想を述べられません。



渡邊 宏枝先生(家庭科)

①ミステリーが好きです。本屋さんに行くと、気が向くと実際に手に取ってみてだけでなく、実用書も読みます。「健康」「風水」「心理」などの分野が好きで、「○○に効く」や「あなたも○○になれる」などの言葉がポツポツに書いてあると買って読みます。

②シンドニー・シェルドンの「ゲームの達人」が一番心に残っています。この本は、読み始めると、漫画のようにどんどん引き込まれて、一睡もせずにあつという間に読み終えました。こんなことは初めてだったのですが、とても驚きました。その後も、東野圭吾や宮部みゆきのミステリーなどは、読みふけていました。

③子どもの頃に、毎週図書館に連れて行ってもらっていたので、自然と・と

いうか強制的に本を読むようになりまして。この頃が一番本を読んでいたかもしれません。

④本屋さんに行くことをお勧めします。「本屋さんおすすめ」などのポップが、たくさん書いてあるので、何となく本を手取るようになると思います。何を讀んでよいかわからない人にオススメです。

⑤手軽に多くの本を楽しむことができ、蔵書も減るため良い面があると思います。ただ私は、読んだ気がしないのであまり好きではありません。友達と貸し借りをして話が弾む漫画のように、読書を通しての共感、書籍の方が得られると思います。



笠井 直美先生(英語)

①わりと何でも読みます。前任校では朝読の時間があったので、このところ短時間で読めるエッセイなどを好んで読んでいました。好きな作家は、ミステリーも好きなので、コナン・ドイルやアガサ・クリステイ

②森絵都の「カラフル」です。私は大人になってから読んだのですが、それでも感動したので、高校生みなさんにもおすすめします。

高山 桂輔先生(理科)



①▼基本的には物理に関する

②▼「君の臍臓を食べたい」です。大切な人との時間は永遠には続かないという当たり前のことに気付かせてくれ、1日1日を大切に生きようと思えた本だからです。

③▼名探偵コナンのマンガを読んで推理小説に興味を持ちました。

④▼世の中は変化するので仕方ないと思います。

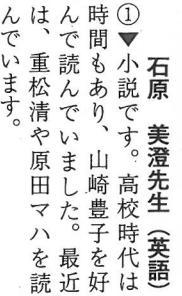
⑤▼便利でよいと思います。

③▼家の本棚に本がたくさんあったので、物心ついた時には読んでいたような状況でした。

④▼まずは、図書館に足を運んでみるのいいと思います。高校生のみなさんが興味をもつ本や読んでほしいという思いが込められた本がたくさんあります。

⑤▼利用したことはありませんが、目が疲れそうだなと思っています。

石原 美澄先生(英語)



①▼小説です。高校時代は時間もあり、山崎豊子を好んで読んでいました。最近では、重松清や原田マハを読んでいます。

②▼山崎豊子の『沈まぬ太陽』です。航空会社を舞台に、巨大企業に翻弄されながらも自らの信念を貫く主人公の姿を描いた作品です。渡辺謙が主演で映画化もされています。

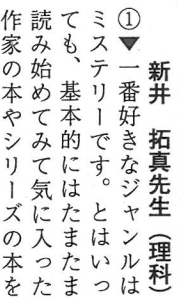
③▼中学校までは、主に漫画を読んでいました。しかし、先述の山崎豊子の長編小説を読んでから、続きが気になるため、時間を忘れて読書をする楽しさに気付くことができました。

④▼読書は人に言われてするものではないので、まずは自分の興味を持ってそうなものを手にとって読むことから始めてもいいのではないかと思います。また、最近では小説が原作で映画化される作品も多いので、自分が面白いと感じた映画の小説を読んでみるのも一つの方法だと思います。

⑤▼電子書籍を利用するかしないかは個人の好みだと思います。私は、目が疲れるという理由で電子書籍は利用しませんが、読みたい本がすぐに手に入る点はとても便利だと思います。

①▼一番好きなジャンルはミステリーです。とはいっても、基本的にはたまたま読み始めてみて気に入った作家の本やシリーズの本を読むことが多いです。好きな作家は、福井晴敏、アガサ・クリステイ、あさのあつこ、JK、ローリングなどです。

新井 拓真先生(理科)



①▼読書は人によって違うと思いますが、私は、最近では小説が原作で映画化される作品も多いので、自分が面白いと感じた映画の小説を読んでみるのも一つの方法だと思います。

②▼電子書籍を利用するかしないかは個人の好みだと思います。私は、目が疲れるという理由で電子書籍は利用しませんが、読みたい本がすぐに手に入る点はとても便利だと思います。

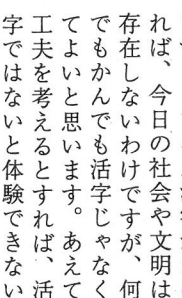
③▼読書は人によって違うと思いますが、私は、最近では小説が原作で映画化される作品も多いので、自分が面白いと感じた映画の小説を読んでみるのも一つの方法だと思います。

④▼読書は人によって違うと思いますが、私は、最近では小説が原作で映画化される作品も多いので、自分が面白いと感じた映画の小説を読んでみるのも一つの方法だと思います。

⑤▼電子書籍を利用するかしないかは個人の好みだと思います。私は、目が疲れるという理由で電子書籍は利用しませんが、読みたい本がすぐに手に入る点はとても便利だと思います。

①▼読書は人によって違うと思いますが、私は、最近では小説が原作で映画化される作品も多いので、自分が面白いと感じた映画の小説を読んでみるのも一つの方法だと思います。

木村立夏子先生(地歴公民)



①▼よく読むのは世界の歴史の本です。歴史を勉強していて、ここはこうのように説明されているけれどよくよく考えるとなぜ？と思うことが多く、その部分について関係するものを探します。だから偏りはあります。好きな作家は川端康成です。

②▼夏目漱石の『吾輩は猫である』です。中学生の時に読み切れず放置していましたが、大学生になって読み返してみました。著者の表現力に驚いたとともに、文豪の作品でクスツと笑えたのはこの作品しかありません。

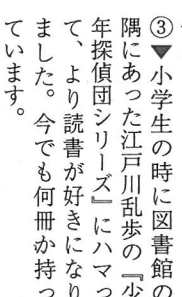
③▼小学生の時に図書館の隅にあった江戸川乱歩の『少年探偵団シリーズ』にハマって、より読書が好きになりました。今でも何冊か持っています。

④▼面白いと本人が感じなければ読書はあまり意味がないように思えますが、難しい問題だと思います。活字に触れたくなるようなきつかけがあればいいと思います。

⑤▼場所をとらなくて便利だと思いますが、私の場合本に直接書き込みをすることが多く、記憶に留めたい思いもあって、電子書籍はほぼ使いません。

①▼よく読むのは世界の歴史の本です。歴史を勉強していて、ここはこうのように説明されているけれどよくよく考えるとなぜ？と思うことが多く、その部分について関係するものを探します。だから偏りはあります。好きな作家は川端康成です。

柳田 淳先生(理科実習)



①▼ドキュメンタリー小説、科学雑誌、紀行文が好きです。

②▼スヴェン・ヘディン『さまよえる湖』中央公論新社

③▼「深く知りたい」ということが読書のきっかけです。興味あることを深く知るには書籍の情報が一番だと思います。

④▼各自が興味を抱いている分野について、活字化されている関連書籍を探して読む。自分はアマゾン検索の機能を良く利用しています。関連書籍の孫引きもできるのも、とても便利です。

⑤▼電力さえ確保できる環境であれば、とても便利なものではないでしょうか。自らは使ったことはありませんが…。

①▼よく読むのは世界の歴史の本です。歴史を勉強していて、ここはこうのように説明されているけれどよくよく考えるとなぜ？と思うことが多く、その部分について関係するものを探します。だから偏りはあります。好きな作家は川端康成です。



図書館主催講演会

「俺の一日」

～教員の生活から

「働くこと」を考える～

講師 中島 厚先生

11月30日(金)第2学期
期末考查最終日の午後1時
から、中島厚先生を講師に
お迎えして、図書館主催の
講演会を視聴覚室で開催し
ました。

講演内容は、次のとおり
です。

「俺の一日」と題して、教
員の生活から「働くこと」
を考えます。大切なことは
「みんな」で考えること。人
それぞれに様々な考え方が
あるので、自分の考えをよ
り深めてもらいたいと思
います。

さて、「働く」ってなんで
しょうか? 何のために「働

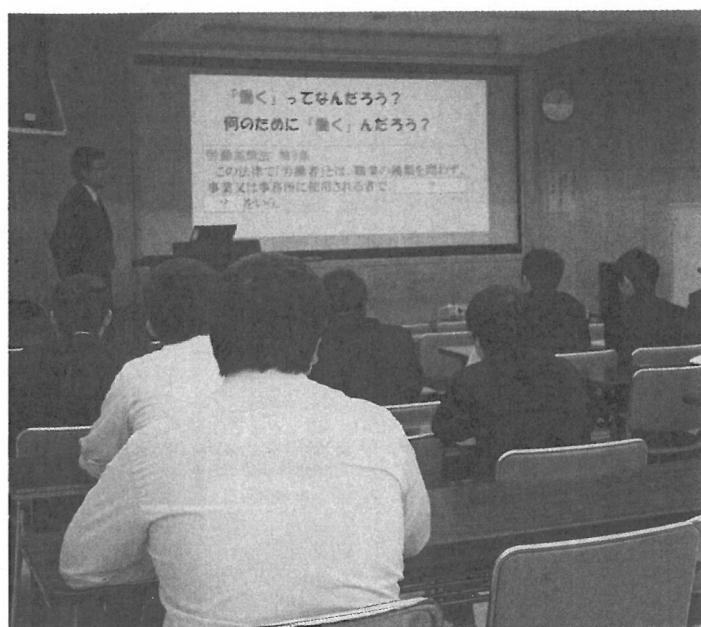
く」んでしょうか? 労働基
準法第九条には「この法律
で「労働者」とは、職業の
種類を問わず、事業又は事
務所に使用される者で、賃
金を支払われる者をいう」
とあります。そう考える
と、何のために「働く」の
か? の答えは「お金を稼ぐ
ため」になりそうです。で
は、お金がもらえればどん
な「仕事」でもいいでしょ
うか? ここで、「中島厚の
一日」を見ていきたいと思います。

二〇一八年九月の有効
人倍率は、六四倍です。人
材不足が叫ばれる昨今、選
ばなければ働くことができ
る世の中です。お金がもら
えればどんな「仕事」でも
いいのでしょうか? 北川恵
海著「ちよつと今から仕事
やめてくる」という小説に、
こんなワンシーンがありま
した。「自慢じゃないが、そ
こそこの名の通る大学をス
トレートで卒業した。それで
も簡単に内定のもらえない
このご時世。とにかく手当
たり次第に面接を受けま
くった。(中略)しかし、こ
とごとく希望の企業の面接
に落ちまくった俺にとって、
この会社からの内定をもら
えた時は、正直かなり嬉し
かった。(中略)俺だって辞
めたいよ。こんな会社だと
思わなかったよ。説明会で
はいいいことばかり言いや
がつて。何が、頑張った分
だけ稼げるシステムだよ。
何が、実力を正しく評価す
る環境だよ。今すぐ辞めて
やりたいよ。でも入社半年
足らずで辞められるわけが
ないんだよ。そんな根性の
ない奴、次の企業が雇って
くれるわけないんだよ」ど
うやら、どんな仕事でもい
いわけではなさそうです。

やはり、自分のなりたい仕
事ならいいのでしょうか?
FM NACK5というラジ
オ局の番組「GOGOMON」
に、こんな投稿がありました。
「なりたくてなった看護
師という職業。でも、希望
の部署にはなかなか配属さ
れず、三年が経過しました。
そんなもやもやしているタ
イミングで転職の話が持ち
上がり、「希望が叶うなら」
と転職を決意。しかし、結
局希望の部署には配属され
ず……」また、プロバスケット
ボールチーム「千葉ジェッツ」
の社長島田慎二著「千
葉ジェッツの奇跡」には、
こんな部分がありました。
「オーナー、経営陣、会社ス
タッフに共通するのは、「バス
ケットが好き」という熱い想
い。その想いを胸に、夢だっ
たバスケットボールクラブ
の運営に邁進していた。夢
の体現……。実に素晴らしい
ことであり、私がとやかく
言う筋合いではない。た
だし、夢を体現する一方で、
彼らの生活はかなり切り詰
められていた」「好きなバス
ケットボールの仕事がで
きるんだから、月給このく
らいで頑張つてよ。残業も
お願いね」こんな雰囲気
を醸し出しているクラブもゼ
ロとは言えない」「スポー
ツビジネスの世界で働いて
いる人には、離婚経験者が多
いと言われる。統計がある
わけではないので実際のと
ころは不明だが、信憑性は
高いと思う。(中略)仮に、
彼らが一般的にみても低い
給料しか稼げず、しかも連

日残業で帰宅が遅かったと
したら、家庭はどうなるだ
ろうか。しかも、土日の試
合の準備のために金曜日は
家に帰れないということに
なれば、結果は誰の目にも
見えてくる」どうでしょ
うか? 「なりたい仕事」に就
いた人も全てがうまくいっ
ている訳ではなさそうです。
では、「働く」ってなんでし
ょうか? 何のために「働く」
んでしょうか?

今は人生一〇〇年時代と
言われています。家族や趣
味、仕事など何に重きを置
くかは自分次第です。でも、
仕事をせずに生きていける
人はほとんどいません。や
らなければならぬのが「仕
事」です。どうせやらなけ
ればならないのであれば、
本気で面白がることを仕
事にした方が絶対に人生が
楽しくなります。みなさん
には、思い悩みながら本当
に楽しいことを探してほし
いと思います。



人気貸出図書

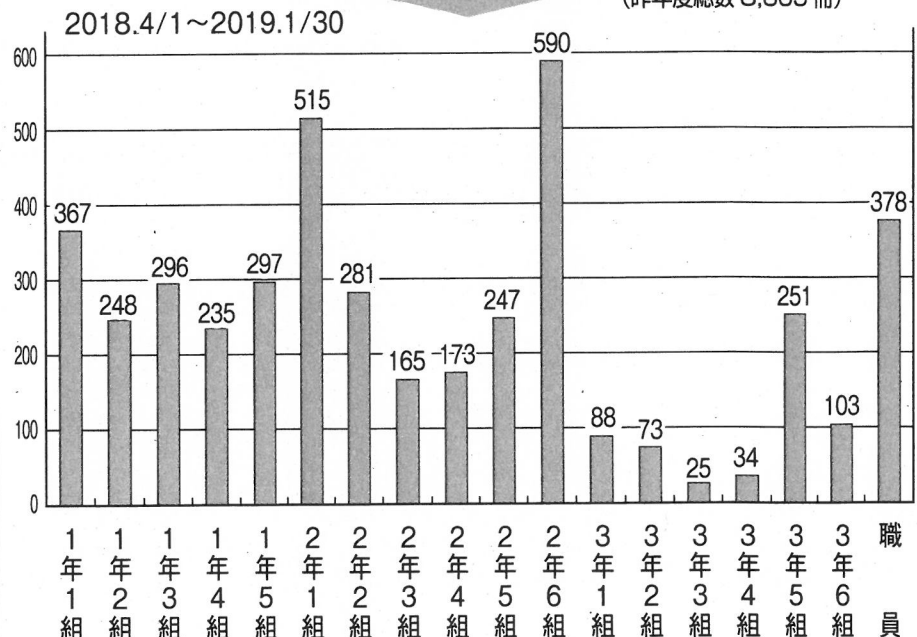
順位	書 名	利用者数
1	この素晴らしい世界に祝福を！ シリーズ (暁なつめ著)	30
2	やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。 シリーズ (渡航著)	19
3	ノーゲーム・ノーライフ シリーズ (榎宮祐著)	14
4	SLAM DUNK シリーズ (井上雄彦著)	13
	静の海 その切ない恋心を、月だけが見ていた 上下巻 (筏田かつら著)	13
6	Re:ゼロから始める異世界生活 シリーズ (長月達平著)	12
	君に恋をするなんて、ありえないはずだった 上下巻 (筏田かつら著)	12
8	半透明のラブレター (春田モカ著)	9
9	三日間の幸福 (三秋縋著)	8
	漫画 君たちはどう生きるか (吉野源三郎著・羽賀翔一／イラスト)	8

貸出利用冊数上位者

順位	クラス	氏 名	利用数
1	2-6	池本 幸多	250
2	2-1	新井 健哲	242
3	2-6	亀金谷 蓮	130
4	3-5	川嶋 一輝	86
5	1-1	橋本 直弥	83
6	2-2	石澤 輝	75
7	3-6	柄澤 旺介	58
8	1-3	長澤 勇亮	57
9	2-1	玉岡 颯斗	52
10	3-5	井上 嵩葵	49

クラス別貸出冊数 本年度総数 4,366 冊

(昨年度総数 3,509 冊)



編集後記

私は幼少期から読書に親しんできたこともあり、館林高校に入學したら図書委員に立候補しようと思いに決まっていた。けれども、一年生・二年生の時は、惜しくも落選。三年生になつて初めて図書委員になることができた時の喜びはひとしきり。さらに嬉しいことには、図書委員長にも選出され、これまでの苦悩が一気に報われたと感じました。しかし、同時に不安もありました。それは「初めて図書委員をやる自分が、いきなり委員長という大役を務めることができるのか」ということです。ただ、今こうして一年を振り返ってみると、仲間や先生方など多くの人に支えられ、なんとか委員長としての仕事を全うできたのではないかと自分では思っています。この場を借りて皆様に感謝を伝えたいと思います。

さて、私が図書委員の仕事で特に印象に残っている活動があります。それは「新着任の先生方による座談会」です。私は司会進行が得意ではないので、その役を他の三年生に代わってもらい、最後の挨拶を担当することになりました。座談会当日、先生方は自分の体験談などを生徒たちにわかりやすく説明してくださり、また私たちの質問にも丁寧に答えてくださいました。和気藹々とした雰囲気の中で、私も

最後に、私から皆さんに伝えたいことがあります。それは積極的な活字に触れてほしいということです。近年ではインターネットやスマートフォン等の普及により、本や新聞等を読む機会が徐々に減少してきているといわれています。また、インターネット等を利用すれば電子書籍を駆使して、物理的な空間を圧迫せずに本が読めるという利点もあります。しかし、私は紙に書かれてある文字を読むことが重要であると考えています。

とある研究によると、「活字で文章を読む方が、電子書籍などで同じ文章を読んだ時よりも、内容が深く読み取れる」ということです。冒頭でも述べましたが、私は幼少期から読書に親しんできました。それは読書が私にとって、物語世界に入り込み、想像を膨らませてくれるようなものだったからです。もちろん読書をする目的は人それぞれだとは思いますが、それでも私は活字に触れることで皆さんの読書体験がより豊かなものになることを願っています。

図書委員会委員長
鈴木 空